

理想に一步近づく

矢口 真衣（山形県立山形西高等学校2年）

1. 3つの事業の柱について

i) 学びのフォーラム

教育の永久に掲げられる「わかること」「できること」「考えること」とはどういうことなのかについて高校生や大学生、現場の先生と全国の年齢を問わない方々、全員が熟考するこの事業は、新たな視点を得られることが魅力的だ。今年度は2回参加したが、全員が違う考え、悩みを持っている。高校生の私にとっては現場の先生とお話ができることが一番のメリットだと考えている。小学校教師を目指すうえで先生とお話ができる機会はそうそうなく、良いことが聞けるチャンスだ。実際に小学校で働いている先生とお話して、「子どもが大好きだから残業なんていくらでもやれる」という言葉を聞いて、熱意を感じられて「将来そうなれていたらいいな」と理想がまた具現化されるいい機会であった。

ii) 聞き書きプロジェクト

恩師を訪問して「聞き書き」をして作品にまとめる取り組みは憧れた教師の話聞くことで理想を改めて気づき素敵な教師に近づくことができるのではないかと先生としての良い面を聞くことができ、生徒同士でも良い影響を受け合うことができる。

iii) 小学校教員体験セミナー

前年度に引き続き小学校教員体験セミナーに参加した。前年度と違うところは1つの学年のみ2時間続けて見続けることであった。中間休みの時間も子どもたちと触れ合う時間が設けられ、子どもたちと触れ合う時間が多くなったことがとても嬉しかった。小学校教諭は子どもが大好きで成長を見届けたいと思って目指す人が多いと考えられるが、私も例に漏れることもなく児童たちが頑張る姿や純粋無垢におしゃべりしたり、絵を描いたり、対決したりなどとても楽しそうに教師になればこの光景を毎日見られると考えたら期待がよりいっそう膨らんだ。そして何よりも担任の先生がどのように中間休みを有効に使っているのかを拝見することができた。プリントやお便りなど作成しており、本当にお手洗いに行く暇もないと言われるほどの忙しさであることを実感した。論点とは離れてしまうが、先生の仕事を見てから学びのフォーラムに行くと楽しさや苦勞をより一層感じ取れた。

2. プラットフォーム会議に参加して

第1回目のときに「教師はブラックな仕事であるという研究を学校でしている」と多くの先生たちの前でしてしまい、失言をしてしまったかと反省していた。しかし、第2回ときに「印象強かった」と言われ、少しホッとしているということ、レポートを通して告白する。これにちなんで、教師とは本当にブラックなのかと改めて自分に問い出したときに、会議を通して最初の考え方とは違う答えが出てきた。私の答えは「職業がブラックだと思う、発言するのは周りの人なのではないか」である。という、教師とは児童・生徒がどうしたら楽しく授業を受けてくれるのだろうかという試行錯誤の毎日する仕事だと解釈している。このプラットフォーム会議に出席された先生方は全員が自分の仕事に誇りを持っているのだろうと感じた。上記の3つの事業について話し合いをすると、どんどん意見が出てきてより良くしようとしているのが伝わる。教員減少が問題に上がる昨今、教育界を盛り上げていこうとして意見の交換がたえないのだろうと思った。そんな委員の皆さんに高校生の私から何かヒントを与えられていたらいいなと思う日々である。

教師は私にとって一番身近な職業で憧れである。『笑顔を絶やさずに子どもたちに親身になって寄り添えるような先生になりたい』と小学校6年生のときに思い、今日に至る。まだまだ理想ではあるがこれに一步でも近づくために尽力していきたい。